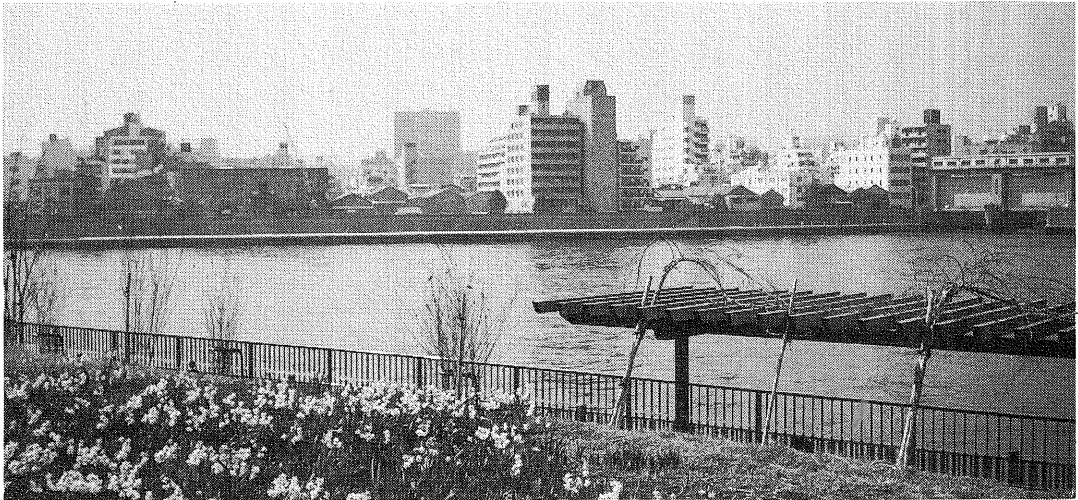


# 京橋の印刷

4月10日1995・No.91

東京都印刷工業組合京橋支部  
〒104 東京都中央区新富1-16-8  
日本印刷会館3F 電話 3552-1855

発行人  
荒川龍治



区画整理が予定されている湊地区を望む

## 組合活動の底に流れるもの

副支部長 中島 康信

古くからある千子学の云う通り 今年平成乙亥は 端から天地を揺るがす大事件の連続である。一体この先日本はどうなるのだろうか。我が京橋支部はどうなるのであろうか。あわてまい、あわてまい。こう云う時デーンとどん坐って静観するに限る。埃を払って「歴史年表」に久しぶりに眼をやった。なんだか暗黒の「縄文時代」日本の歴史で一番長い一万年間も続いてたと思われる其の時代に すでに農耕社会が構築されていた事を最近の発掘調査で次々と証明されつつある。ついで「弥生時代」もうこの時代は中国・朝鮮とはいろいろと関り合っている。文化的にも大陸からは相当の影響を受けている。古事記・日本書記・万葉集が出来て文化的に日本が確立した頃から現代まで千三百年もたっている。独断と偏見で云えば縄文のその昔から一万三千年の永きに亘って日本人は生きていたのだ。一民族、一言語、一文化でこの永い間 主に稲作農業が成立して来た。この日本の社会で何が蓄積されて来たのであろうか。ずばり水田稲作農業によってのみ生れた「村意識」である。

昭和二十年八月の終戦、其れ以後の経済はモノ作り経済で来た。現在の農業に従事する人口はすでに全体の3パーセントまで落ちてきている。現代社会は脱農業と云っても過言でない。しかし、現代社会のいろいろなものの中に潜在的にこの村意識が厳然として生き残っているのである。良きにつけ悪きにつけ「皆んなで渡れば…」である。これが遺伝子となって日本人の生命の中にずうーと組み込まれているのである。組合活動にしても「皆んなで渡れば」である。例えば先輩諸氏が努力苦心して「印刷健康保険組合」を作り、厚生年金、年金基金等と組合員の幸福を作り上げて来ている。組合活動の底流にあるものである。第一次、第二次、第三次、第四次と構造改善を積み重ねる新界の発展の為に先人達のご苦労されたものである。立派な「村意識」である。

ご苦労されたものも、自分さえ良ければいいのだとエゴだけでは人間は生きられないのである。ギブアンドテイクが人間生活の鉄則である。ツケは払わなければならないルールを忘れてはいるのじゃないのか。五十年間、戦争一つない状態が続けばボケてくるのも当然であるかもしれない。

静かに思えば菜根譚のこの言葉に思い当る。「友に交るには、須らく三分の俠気を帯ふべし。人と作るには、一点の素心を要す」と。表現を変えた「村意識」ではないであろうか。忘れさられている組合活動の底に流れているものを今一度思い起してみたいと思う。俳人松尾芭蕉は「不易・流行」を唱えている。勿論変えなければならぬものは変える。だから生き残って来ている。しかし変えてはならぬ原理原則は変えてはならぬ。時代の風にならずに厳然と守らなければならぬ。アゲインストの中、考えるには絶好の機会である。

# 新 年 臨 時 総 会

2月3日・箱根湯本  
ホテル「おかだ」

2月3日(金)午後4時より、箱根湯本温泉ホテルおかだ、プロビデンスホールにおいて、東印工組京橋支部新年臨時総会が開催されました。当日は、2時からの地区長会に続いて、総会では中島副支部長の司会により開会されて、開会のことばを十文字副支部長が、続いて荒川支部長の挨拶で次のように述べました。

「皆様には、恙なく新年をお迎えになられた事を心よりお慶び申し上げます。

日頃は東京都印刷工業組合及び京橋支部の事業運営に対しまして格別なるご協力とご支援を賜わりまして、厚く御礼申し上げます。

さて昨年より厳しい社会情勢の続く中、本年1月17日に起りました兵庫県南部地震による被害は、真に甚大なものがあります。ここに犠牲となられた方々に対しまして、お悔やみを申し上げますと共に、被害に遭われました方々には、心から御見舞いを申し上げます。又この大震災の復旧と救援に、危険な状況の中で、昼夜活躍されている、警察、消防、自衛隊、ボランティアの皆様には、感謝申し上げますと共に、深甚なる敬意を表したいと存じます。特に兵庫県印刷工組に属する皆様には、一日も早く復旧されまことを祈念申し上げます。尚、皆様へ野村理



事長から呼び掛けられた義援金は、京橋支部で2月3日現在、115社、約300万円となりました。心から感謝申し上げます。

今年には第2次大戦後50年を迎え、又京橋支部創立71年目に当る年でもあります。省みますれば、当支部の創立は、関東大震災の時に当り、又戦後は、戦災による灰塵の中から、支部組合員の努力と叡智によって立ち直り、現在の発展を成し遂げたのであります。その一番目の理由は、個々人が印刷業に対して誇りと情熱と、継続しようという信念を持っていた事。二番目は、目標を持って人材育成をしているからであります。今は激動の時代で、印刷技術も変革しています。それに対応するには、情熱と信念と計画性を持つ事が重要です。3年以上も続く現在の不況が、新しい構造変化の波かどうが見極めて、印刷業界の構造改善事業に乗り、お互い情報交換や作業交流によって繁栄を期して今後も、先輩の精神を引き継いで、頑張っていきたいと思っております。

最後に、皆様のご健勝と各企業のご発展を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

次に議事として前期役員への感謝状・記念品の贈呈が行われ、中島副支部長が、神林前支部



長を始め、副支部長、監査、地区長、幹事の順に全員の氏名を読み上げて、順次、荒川支部長から感謝状と記念品の贈呈が行われました。

続いてご来賓の挨拶として、まず、東印工組副理事長、田嶋一弥氏が次のように挨拶されました。

「只今は、新年臨時総会で、前期役員の方々へ感謝状が贈呈されましたが、長年支部運営にご尽力されました事に、敬意を表すると共に感謝申し上げます。又、平素は組合運営につきまして、支部長さん始め執行部の方々、並びに支部員の皆様方には、大変ご協力、ご支援を戴き、厚く御礼申し上げます。就中、小山さん、篠倉さんの両常任理事には、大変ご尽力を戴き、特にご担当の事務用印刷委員会、労務委員会では、委員長として活躍戴いておりますので、大変心強く、感謝申し上げます次第です。

さて、世の中は明るさが見えてきたとはいえ、中小企業にとつては、まだまだ厳しい経営環境にあります。技術革新、中でも電子化の問題、又価格破壊によるお客様からのコストダウンの要求、中にはそれに応じられなければ、海外に発注するといわれ、大変困っている企業もあると聞いています。更には国内産業の空洞化や環境保全の問題等、難問が山積しています。これらに対応していくためには野村理事長が申されるように「組合は共に栄える工夫を」をモットーに組合員が知恵を出し合い共に力を合せて乗り切って行かねばなりません。

さて過日の兵庫県南部地震による被災者救援の一つとして、印刷組合も、兵庫県工組の被災企業へ義援金の拠出を、お願い致しましたが、多数の皆様のご協力により、東印工組全体で、目標額の150万円を、2月3日現在、達成されるうであります。心から感謝申し上げます。東印工組の中で当支部は、最大の支部でございます。是非、リーダーシップを発揮され、今後の組合事業、並びにその運営に、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、京橋支部の益々のご発展と皆様方のご企業の繁栄並びに皆様のご健勝を祈念申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。」

続いて、中央区工団連副会長、小葉忠昭氏、そして中央区商工課長、河野聡氏から挨拶がありました。

閉会のことばを、関根副支部長が述べ、約1時間で総会が終了しました。



午後6時からは、関連業界30社の方々のご出席をいただき15名が揃って、記念撮影の後、山崎・石井両副支部長の進行で新年宴会が開かれました。荒川支部長が挨拶を行い、関連業界の方々に、日頃の御協力にお礼を述べた後、関連業界を代表して、東製工組京橋支部長、岸田俊辰氏が挨拶をされました。続いて、当支部石澤顧問が首頭をとり、一同乾杯をして賑やかに歓談となりました。宴半ばでは各地区の代表によるのど自慢やカラオケで、日頃の疲れを発散させていました。8時過ぎには小山常務理事による中締があり、宴会もお開きとなり、翌朝、朝食後、解散となりました。

(岩本)

# 地区だより

## 新富地区

### 新富地区 研修会

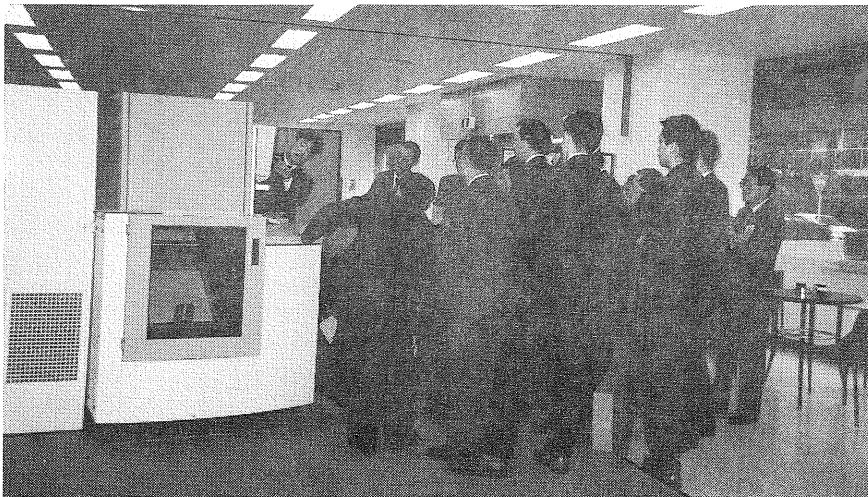
- ・平成七年二月十六日
- ・東洋インキ製造(株)
- ・東陽町テクノロジーズセンター

デジタル・フルカラーオフ機「E.P.r.i.n.t-1、〇〇〇」の見学を企画しました所、皆さん非常に関心をおもちになり、三〇名を越す多数のご参加をいただきました。

昨年八月晴海で、デジタルカラー印刷システム「クロマプレス」が日本で初公開されました。フィルム、刷版を一切使わずに、デスクトップのコンピュータで作られたファイルから、直接カラー印刷する(粉体トナーで)という機械をみせられて、ショックをおぼえたのも束の間、半年もたたないのに、今後は一ミクロンの液体トナーを使って(解像度八〇〇dpi、一三三三線)CEPSやマックなどの画像を直接版シリンダーに、一回ずつ新しい潜像を作り、前準備なしで、A3判片面カラー四色でも、両面カラーでも、即、一枚目から正紙が印刷される、E.P.r.i.n.t-1、〇〇〇という今迄に見た事がない画期的な印刷機でした。

液体トナーインキは、フィルム状となつて、一〇〇%そっくり紙に転移するので、印刷後の

各シリンダーは一回転ごとにきれいになるため版、プラン共、各一本のシリンダーで(今迄の印刷機では各色ごとに各胴が必要)次のインキを補給するための一回転、約一秒を中にはさみ一セットで四色刷をしまし、A3判片面毎時一、〇〇〇枚の印刷が可能。



そして今迄の印刷機は、刷版をつけて、同じ画柄を一、〇〇〇枚とか、何万とかを大量に印刷するものばかり思っていました。しかしE.P.r.i.n.t-1、〇〇〇は、データを入力しておけば、今迄に出来なかつた、毎ページ異なる画像の印刷をやつてのけるという、例えば、三十二頁でも、四〇頁でも、頁物印刷が丁合され、すぐ製本が出来る状態にまで出来てしまう。

E.P.r.i.n.t-1、〇〇〇の、もう一つの特徴は、なんといつでも、データさえ入力してやれば、必要な時、必要な内容を、必要な数だけ(一部でも)即、印刷することが出来るということです。

文字通りオンデマンドで、さらにバージョンアップされて、解像度二四〇線になるのも間近だといわれており、日進月歩驚異的に技術進歩が行われております。

スピード、多品種、小ロット化する超情報化社会に、いかに対応し、いかに活用出事るか、良く考え、これからも、もつともつと勉強しなければと思つていきます。

「E.P.r.i.n.t-1、〇〇〇」は、東洋インキ製造(株)より、五、五〇〇万円で販売開始。

#### 見学された方々の感想

デジタル化、電子化の印刷について、非常に感銘を受けました。

特に一枚だけでもカラー印刷が出来るのを、目のあたりにみて、脅威に感じました。

今はこの事実を我々がどのように捉えるかを、真剣に考えるべきだと思っております。

(H社・A氏)

予てよりE・P・r・i・n・tについて、そのシステム、構造に興味がありましたので、今回の見学会に参加させてもらい、その詳しい概要を知る事ができました。

プリンター、或いはカラーコピーの一種かと思っていました。が、なるほどE・P・r・i・n・tは今迄の常識では考えられないオフセット印刷機でした。

E・P・r・i・n・tの特徴は、今後の市場ニーズに合致しており、また多様な市場ニーズの掘り起こしに強力なセールスツールとなり得ると実感しました。

再度この様な機会がありましたら、是非参加したいと思いますが、DTPシステムをどの様なデザインで構築するのが重要な問題なので、次回はフロント側の説明をもう少し詳しく聞きたいと思えます。

(S社・H氏)

弊社は日頃ビジネスフォームを主体に活動している関係上、カラー物は不得意な分野です。

しかしながら、昨今の印刷業界においては、DTPの話題でもちきりでありませう。

聞くよりも見た方が早いと云うことで、今回参加させて戴きました。

従来の印刷概念からすると、印刷までの工程を省略し、液体トナーによるデジタル印刷は、まったく新しいものを見た驚きでありました。



しかし冷静に考えると、ハード価格、性能、品質等には、まだ問題も多い様に思われます。E・P・r・i・n・tのデジタル印刷は、業界に於いては大きなショックでもあり、今後の一つの新しい方向でもあり目が離せない存在です。

(K社・K氏)

E・P・r・i・n・tを見て、聞いて、従来のオフセット機と比較するのは意味がなさそう。そう思いました。たしかに、デジタルデータ入力だからこそそのオン・デマンドは魅力的です。これは従来の大量印刷のように(紙、サイズ、単価などの点で)できたら、それを革命物です。

プリプレスまでやってきたデジタル化も、プレス段階で立ち止まっているという感じがします。ただ、E・P・r・i・n・tが提起している「よりパーソナルな印刷物に」という点は、大いに注目し、なりゆきをよく見ていく必要があるようです。

この手のニーズがふくらむとしたら、従来型の印刷、確立されたマス・プロセスシステムでは対応できないことが明らかだからです。

E・P・r・i・n・tの現実的な展開は、どうなるのでしょうか。ディスク入稿が当然の出力サービスセンターなら、E・P・r・i・n・tの導入、稼働も簡単すでに販売を始めているところもあるぐらいです。もちろん、取扱窓口としてです。

まずは、フランチャイズ制で広がっていきそうです。

(N社・I氏)

以上の様に、大変な反響を得ました。

DTPの現状と将来、オンデマンド印刷のトレンド、そしてアプリケーション迄、詳しく、わかりやすく説明を受け、見学させていただきました。

オンデマンドシステム事業部石見課長、室川両氏に心から御礼申し上げます。

(山内)

# 中央区商工業各種表彰式

2月27日(月)、15時から中央会館7階にて、中央区・区商連・工団連主催の商工業各種表彰式が行われました。開会の辞に続き、まず区商連関係の表彰が行われた後、工業事業主(30年以上経営)の表彰が行われ、3名の内、京橋支部の神林印刷(株)神林克明氏が受表彰されました。工業優良従業員は、尾賀印刷(株)2名、永和堂(株)2名が10年以上で表彰、高千穂印刷(株)2名が、20年と30年以上で各表彰されました。表彰後、矢田中央区長の挨拶、区商連会長及び工団連会長の挨拶に続いて、祝辞が中央区議会議長、東商中央支部長によって行われました。最後に受賞者を代表して、神林印刷(株)神林克明氏が謝辞を感謝の言葉とともに述べました。

表彰式終了後、別室にて受賞者の記念撮影が行われ、祝賀会が開かれて、受賞者の永年の労が讃えられました。



# 顧問・相談役・参与の会

4月3日(月)、13時より京橋支部会議室において、臨時の顧問・相談役・参与の会が開かれた。主な議題として、今月予定されている総会に際し、決算報告及び次年度予算案について、かなり厳しい状況にあるために、支部諸先輩よりご意見を拝聴して、執行部としての対策をたてたいとの考えからであった。当日は14名の出席を得て計20名が集まり、まず十文字副支部長より開会主旨説明があり、続いて荒川支部長が現況報告とともに本部の賦課金の改訂案等の説明を行った後、支部財政逼迫の善後策について協議した。これに関連して、中央区商工団体新事務局がこの4月からスタートしたことが、小葉工団連副会長より報告された。そして現在中央区で計画立案中の商工会館建設についても、近い将来、実現化の見通しであり、その時には、支部の事務所を新しい商工会館に、安い賃借料で借りられることになり、現在の印刷会館の家賃が相対に減る訳で、支部財政の健全化になるので、3年位の我慢であるとのことであった。又荒川支部長からの説明では、中央区地域整備課の話として、湊地区再開発計画が立案され、国によって承認され、現在、虫喰い状況にある湊地区の一面が、中央区等の参加する第3セクターにより、地主の秀和(株)より買上げられて、高層ビルが住居用に建設され、その際、立退く者は、同じ湊地区内であれば、無税で売買できるというものです。又他地区へ移る者は、比較

的低い税率の税金で済む予定であるとのこと、更に区画整理された地域の2〜3割の地所を中央区が取得して区の施設にするという計画です。区民人口の増加と商店の活性化を図る目的で行われます。

# 支部の動き

平成六年

12月1日(木)本部支部長会、(15時〜17時)於・印刷会館4階、荒川支部長出席

1、本部事業推進についての協議事項

・賦課金算定基準見直しに対する対応

・最低資本金制度の改正についての対応

・事業者台帳・構造改善調査の回収状況

2、支部提案事項について

・「PL法」(製造物責任法)の対応と啓蒙について

・各支部に於ける慶弔費予算

12月2日(金)京橋地区会、(18時〜19時)於・京橋多慶丸、荒川支部長出席

12月9日(金)顧問・相談役・参与の会、(17時〜20時)於・躍金楼、会費1万3千円

12月12日(月)銀座地区会、(18時〜20時)於・銀座みやこ、荒川支部長出席

12月28日(水)支部事務局仕事納め

平成7年

1月5日(木) 仕事初め

1月12日(木)中央区工団連新年会、(18時〜19時

1月12日(木)中央区工団連新年会、(18時〜19時

30分) 於・中央会館

1月13日(金)本部新春の集い、(17時30分)19時

30分) 於・東京プリンスホテル

1月17日(火)臨時部長・監査会、(18時)20時)

於・銀座竹葉亭、会費1万5千円

1月24日(火)中央区工団連正副会長会、(11時)

13時) 於・中央区役所

1月24日(火)東製工組京橋支部新年会、(18時)

20時) 於・銀座東急ホテル、荒川支部長出

席

1月25日(水)新年臨時総会執行部打合せ、(14時

16時) 於・支部室

1月26日(木)中央厚生事業協組新年会、(18時)

20時) 於・日本橋北浜、荒川支部長出席

2月2日(木)本部支部長会、(15時)17時) 於・

印刷会館、荒川支部長出席

2月3日(金)部長・監査・地区長会、(14時)15

時30分) 於・箱根湯本、ホテルおかだ

1、支部長会報告事項、(本部事業推進につ

いて)

。賦課金算定基準見直しについての協議事

項、今後の対応、3/16以降

組合員への概略のPR、(東京の印刷誌

上)、理事会算定基準見直しを上程

組合員への周知、(パンフ等)、理事会・

総代会へ提出議案の承認

組合員への周知、(支部総会等)、5/24

通常総代会へ上程

。最低資本金制度の改正についての対応

。事業者台帳・構造改善調査の回収状況

。ネットワークシステムの構築について

。簡易管理用ソフト」実践研修会、2月

23日(木)、18時)20時、定員20名

。阪神大震災、兵庫県工組被災者義援金に

ついて

2、当面する支部事業について

。新年臨時総会進行について打合せ、新年

宴会進行について打合せ

3、その他

。「京橋の印刷」の発行について、4月初

め予定

。アウトサイダーの組合加入勧誘状況、組

合加入者、金子特殊印刷(株)・金子幸雄氏

(新富地区)、組合脱退者、町田印刷

(株)・町田岩男氏(新富地区)

。次回地区長会、3月9日(金)12時

2月3日(金)京橋支部新年臨時総会、(16時)17

時) 於・箱根湯本、ホテルおかだ会費2万

3千円

司 会

中島副支部長

十文字副支部長

荒川支部長

議 事

前期役員へ感謝状・記念品の贈呈

その他

来賓挨拶

東京都印刷工業組合副理事長 田島一弥氏

中央区工団連副会長 小藜忠昭氏

中央区地域振興部商工課長 河野 聡氏

新年宴会次第(午後6時)

進行 山崎・石井副支部長

挨拶 荒川支部長

関連業界代表挨拶

東京都製本工業組合京橋支部長

岸田俊辰氏

乾 杯 京橋支部顧問 石澤 幸氏

中 締 東京都印刷工業組合常務理事

小山英美氏

2月15日(水)京橋電気安全協会理事会、(11時30

分)13時)、於・京橋消防署、岩本書記代

理出席

2月22日(水)支部内打合せ、荒川支部長他出席

2月27日(月)中央区工団連主催 優良事業主・従

業員表彰式、(15時)16時) 於・中央会館

3月2日(木)臨時部長会、(12時)15時) 於・京

橋支部室、次期予算案検討

3月2日(木)本部支部長会、(15時)17時) 於・

印刷会館、荒川支部長出席

3月9日(木)部長・監査・地区長会、(11時)14

時) 於・支部室

1、支部長会報告事項、(本部事業推進につ

いての協議事項)

。全印工連「総合設備共済制度」の概要

。賦課金算定基準見直しに対する対応、

(理事会及び各支部総会について)

。最低資本金制度の改正についての対応

。阪神大震災の被災者義援金について、金

額、礼状

。売上動向調査

2、支部提案事項

。中小企業時短奨励金の啓蒙

。義援金の具体的配分方法

。賦課金改訂と算定基準見直しについて

3、当面する支部事業について

。通常総会を 4 月 21 日(金)18 時、築地スエヒロで開催予定

。支部事業報告書の作成、予算案の作成

。「京橋の印刷」作成、4 月予定

。その他、委員会報告等

3 月 17 日(金)本部理事会、(15 時～17 時)於・健保会館、各理事出席

支部員の異動

加入組員

。金子特殊印刷(株)、金子幸雄氏(新富地区)

区) 3 月

脱退組員

。町田印刷、町田岩男氏(新富地区)

。光ビジネスフォーム(株)、瀬戸政春氏(京橋地区)

所在地変更

。丸栄(株)、安田恵美氏、いずれも 3 月

所在地変更

。長崎印刷(株)(入船地区)は、入船 1-3

1-9、長崎ビルへ戻りました。

支部名簿 FAX 番号の訂正

。(株)典文社(25 頁) 3541-2016 に訂正

。(株)アイセル(33 頁) 3552-5891 に訂正

。(株)坂本印刷社(39 頁) 3553-0745 に訂正

。美術企画印刷(株)(44 頁) 電話番号 5620-0211 に訂正願います。

お悔やみ申し上げます

▼新富地区、日本精版印刷(株)会長令夫人、中村登志子殿御逝去(12 月)

▼八丁堀地区、(株)三省社印刷所社長、新井晶男殿御逝去(1 月)

▼湊地区、正和印刷(株)社長夫人、西田艶子殿御逝去(2 月)

▼新川地区、朝日印刷(株)会長、広瀬徳次殿御逝去(2 月)

▼築地地区、(株)典文社社長御母堂、土井こう殿御逝去(2 月)

▼銀座地区、(株)昇寿堂相談役、瀬戸昇之助殿御逝去(2 月)

▼湊地区、西和印刷(株)社長御母堂、西山婦美殿御逝去(2 月)

▼湊地区、金木印刷工業(株)会長、金木武一殿御逝去(2 月)

▼新川地区、(株)中央社会長、小泉健次殿御逝去(3 月)

▼入船地区、三秀印刷(有)社長御母堂、小林達江殿御逝去(3 月)

▼京橋地区、(株)金陽社印刷所会長、細田四郎殿御逝去(3 月)

編集後記

昨年末から続発していた地震が、年明け早々に、阪神大震災として、未曾有の大災害をもたらしました。関東大震災から、72 年目の同じ、亥年・五黄土星の重なる今年に関西に起きたのも何か不気味な感があります。不気味といえば、3 月 20 日に地下鉄にばらまかれたサリンの毒ガスにより、10 人の死者を出し、5 千人にのぼる被害者を出した事は、阪神大震災に次ぐ大事件で、世界中を震撼させました。丁度、通勤時間帯に、日比谷線の茅場町、八丁堀、築地駅等が現場となっただけに、京橋支部関係各方面の会社の従業員の方々が事件に巻き込まれて被害を受けました。心からお見舞いを申し上げます。このように暗い事の続く今年ですが、国内景気も、相変らずの低迷を続け、印刷業界もそのおろを受け一向に上向き気配がありません。円高、株安、金融機関の信用不安等、関東大震災後の状況と似てきたとの話もあり、今年一年の先行きが、思いやられます。せめて気持ちだけは明るく過ごしたいものです。今月号は、原稿も少なく、8 頁になりましたが、次号は各種の催物も予定されていますので、内容の充実したものになると期待しています。ご投稿をお待ち申し上げます。(岩本)